

お口爽やかですか

テーマ 糖尿病と歯周病の負の連鎖



歯周病は糖尿病を、 糖尿病は歯周病を悪化させる

歯周病ってどんな病気

歯周病はプラーク(菌垢)つまり、歯に付着した細菌によっておこる感染症です。

プラークは歯と歯ぐきにつくネバネバしたもので、放置しておくと歯を支える骨が溶け、最後には歯を失うことにもなります。

歯を失うと食べ物がかうま

く噛めなかったり、発音や言葉への影響や、顔の形までも変えてしまうことがあります。これを防ぐにはブラークをしつかり取り除き、正しくプラークコントロールするため歯科医院で正しい指導を受けることが必要です。

糖尿病とのかかわり

近年、歯周病と糖尿病との関連性が明らかになっており、歯周病が糖尿病を悪化させるメカニズムが分かってきました。

炎症で生じる物質と歯周病菌の毒素が生産され、それが肝臓や脂肪細胞などに作用し、インスリンの効果が悪くなって血糖値を下げる事が出来なくなりま

す。
また、反対に糖尿病があ

ると歯ぐきの結合組織が弱くなったり、歯ぐきの血行不良や唾液の減少、多核白血球などにより免疫力が低下し、歯周病を悪化させます。

歯周病には、やはり専門的なアドバイスを受け、プロフェッショナルケアが必要

お口と健康とからだの健康フォーラム

平成20年11月9日(日)、旭川大雪クリスタルホールにおいて、旭川医科大学教授(医学部歯科口腔外科学講座)の松田光悦先生を中心とした「糖尿病と歯周病の負の連鎖」という内容のシンポジウム(上川中部地域歯科保健推進協議会主催)が行われ、多くの市民が講演を聴講しました。